

2年

1 せいりのしかた (教科書:p.16~22 時期:4月 配時:3時間)

[単元の目標]

身の回りの数量について、観点に着目して分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができる。

知 身の回りの数量を分類整理し、簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすることができる。

考 表やグラフに表すと、物の個数や多少などが分かりやすくなることを考えることができる。また、身の回りの数量を観点に着目して分類整理し、表やグラフを用いて考察することができる。

主 表やグラフに表すことよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 せいりのしかた (教 p.16~21)	1	・身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフに表し、それらを読み取って、特徴をつかむ。	考 数量を分類整理して捉え、簡単な表やグラフに表すと、数が分かりやすくなることを考えている。 主 表やグラフに表すことよさに気づいている。
	2	・表やグラフを読み取り、その特徴を捉えたり、観点を変えて表やグラフをつくったりする。	知 観点を変えて、表やグラフに表すことができる。 考 表やグラフの特徴に気づき、そのよさを考えている。
たしかめもんだい (教 p.22) *クラスしょうかいを しょう (教 p.22)	3	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 *表やグラフを活用し、クラスの紹介をする。	知 数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすることができる。

*算数たまたばこ

2 2けたの たし算 (教科書:p.23~38 時期:4月 配時:8時間)

[単元の目標]

2位数の加法について、位ごとに分けて計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

知 2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、加法における交換法則を理解する。

考 2位数の加法について、数の構成に着目し、既習の計算を活用して計算の仕方を考え、説明することができる。

主 2位数の加法について、既習を生かして考えようとしたり、生活や学習に生かそうとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 2けたの たし算 (教 p.23~35)	1	[アプローチ] ・ 折り紙を合わせる場面から、1学年で学習した加法を振り返り、2学年で学習する加法に興味・関心をもつとともに、本単元の見通しをもつ。	考 2位数+1位数の計算の仕方をもとに「何十何」+「何十」も10のまとまりとばらに分けて計算できることを見いだしている。 主 既習の加法の計算をもとに、「何十何」+「何十」の計算の仕方を考えようとしている。
		・ 既習の2位数+1位数の計算をもとに、「何十何」+「何十」の加法を10のまとまりとばらに分けて、計算する。	
	2	・ 繰り上がりのない2位数の加法を十の位と一の位に分けて計算する。	知 2位数の加法は、十の位と一の位に分けて考えると計算できることを理解している。 考 数の構成に着目し、繰り上がりのない2位数の加法の計算の仕方を考え、説明している。 主 2位数の加法の多様な計算方法について、それぞれの考えのよさを認めたり、考えを関連付けたりしながら、話し合っている。
	3	・ 繰り上がりのない2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 繰り上がりのない2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 前時で見いだした位ごとに分ける計算の仕方を筆算の仕方と結び付けて考えている。
4	・ 繰り上がりのない2位数の加法について、いろいろな場合に	知 「何十」+「何十何」や1位数+2位数などの加法について、筆	

		おける筆算の仕方を理解し、計算する。	算の仕方を理解し、計算できる。 考 筆算で位をそろえて書く理由について、位ごとに分けて計算する考え方をもとに説明している。
	5	・ 十の位に繰り上がる2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 十の位に繰り上がる2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 十の位に繰り上がる2位数の加法の筆算の仕方について、位ごとに分けて考え、説明している。
	6	・ 十の位に繰り上がる2位数の加法において、いろいろな場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 一の位が空位になる計算や1位数+2位数などの繰り上がりのある2位数の加法について、筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習の筆算の仕方を使って、いろいろな場合の2位数の加法の筆算に取り組み、他の計算についても考えようとしている。
2 たし算の きまり (教 p.36~37)	7	・ 具体的な場面を通して、加法の交換法則が成り立つことを理解する。	知 加法の交換法則を理解している。 考 見いだした加法の交換法則について、いつでも成り立つかどうかを調べている。
たしかめもんだい (教 p.38)	8	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数の加法を筆算で計算することができる。 考 2位数の加法を表した図や式、筆算について、その考え方を説明している。

3 2けたの ひき算 (教科書:p.39~52 時期:4~5月 配時:9時間)

[単元の目標]

2位数の減法について、2位数の加法をもとに、位ごとに分けて計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

知 2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、加法と減法の相互関係を理解し、それを用いて計算を確かめることができる。

考 2位数の減法について、数の構成に着目し、既習の計算を活用して計算の仕方を考え、説明することができる。

主 2位数の減法について、既習を生かして考えようとしたり、生活や学習に生かそうとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 2けたの ひき算 (教 p.39~49)	1	[アプローチ] ・ シールを取る場面から、加法のときと同じような方法で求められるか考え、2学年で学習する減法に興味・関心をもつとともに、本単元の見通しをもつ。 ・ 既習の2位数の加法の計算の仕方をもとに、「何十何」-「何十」の減法を10のまとまりとばらに分けて計算する。	考 2位数の加法の計算の仕方をもとに、「何十何」-「何十」も10のまとまりとばらに分けて計算できることを見いだしている。 主 既習の減法の計算をもとに、「何十何」-「何十」の計算の仕方を考えようとしている。
	2	・ 繰り下がりのない2位数の減法を、十の位と一の位に分けて計算する。	知 2位数の減法は、十の位と一の位に分けて考えると計算できることを理解している。 考 数の構成に着目し、繰り下がりのない2位数の減法の計算の仕方を考え、説明している。
	3	・ 繰り下がりのない2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 繰り下がりのない2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 前時で見いだした位ごとに分ける計算の仕方を筆算の仕方と結び付けて考えようとしている。
	4	・ 繰り下がりのない2位数の減法について、いろいろな場合における筆算の仕方を理解し、計算する。	知 答えに空位ができる計算や2位数-1位数などの減法について、筆算の仕方を理解し、計算できる。

			<p>考 筆算で位をそろえて書く理由について、位ごとに分けて計算する考え方をもとに説明している。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> 十の位から繰り下がる2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算する。 	<p>知 十の位から繰り下がる2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p>考 十の位から繰り下がる2位数の減法の筆算の仕方について、位ごとに分けて考え、説明している。</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> 十の位から繰り下がる2位数の減法において、被減数の一の位が0の場合の筆算の仕方を理解し、計算する。 	<p>知 被減数の一の位が0の場合の2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p>考 既習の筆算をもとに、被減数の一の位が0の場合の筆算の仕方を考えている。</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> 十の位から繰り下がる2位数の減法において、いろいろな場合の筆算の仕方を理解し、計算する。 	<p>知 答えが1桁になる計算や2位数-1位数などの繰り下がりのある2位数の減法について、筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p>主 これまでの学習を生かして、いろいろな場合の2位数の減法の筆算に取り組み、加法と減法の筆算についてまとめようとしている。</p>
2 計算の たしかめ (教 p.50~51) *たし算の たしかめ (教 p.51)	8	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を通して、加法と減法の相互関係を理解し、それを活用して計算の確かめをする。 <p>*加法の確かめが減法のできることを理解する。</p>	<p>知 加法と減法の相互関係を理解し、それをういて計算を確かめることができる。</p> <p>考 見いだした加法と減法の相互関係について、いつでも成り立つかどうかを調べている。</p>
たしかめもんだい (教 p.52)	9	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 	<p>知 2位数の減法を筆算で計算することができる。</p> <p>考 2位数の減法の仕方を表した図や式、筆算について、その考え方を説明している。</p>

*算数たまたばこ

4 長さの たんい (教科書:p.53~65 時期:5月 配時:9時間)

[単元の目標]

長さの表し方を考え、長さの単位の意味や関係、ものさしの仕組みを理解し、ものさしを用いて長さを測定したり、直線をひいたりすることができる。

知 長さの単位 cm、mm とその関係 ($1\text{cm}=10\text{mm}$) を理解し、ものさしを用いて長さを測定したり、直線をひいたりすることができる。また、簡単な場合について、長さの加減の計算ができる。

考 長さの表し方を考え、普遍単位の必要性や下位単位の必要性に気づく。

主 普遍単位を用いて長さを表すよさに気づき、長さの単位やものさしを用いた長さの測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 長さの あらわし方 (教 p.53~62)	1	・ 長さの普遍単位「cm」を知り、1cm 単位の日盛りテープの日盛りを読み取り、長さを表す。	知 長さの単位に「センチメートル」があることや普遍単位のよさを理解し、cm 単位で長さを表すことができる。 考 異なる任意単位では長さが比べられないことから、普遍単位の必要性に気づいている。
	2	・ 日盛りテープを用いて、cm 単位で長さを測定する。	知 cm 単位での長さの表し方を理解し、長さを測定することができる。
	3	・ 1cm を 10 等分した 1 つ分の長さの単位「mm」を知り、cm と mm を用いた長さの表し方を理解する。	考 cm 単位の限界に気づき、下位単位である mm の必要性を考えている。
	4	・ ものさしを用いた測定の仕方を理解し、物の長さを cm、mm 単位で測定する。	知 ものさしを用いた長さのはかり方を理解し、長さをはかることができる。
	5	・ $1\text{cm}=10\text{mm}$ の関係を用いて長さを表す。	知 $1\text{cm}=10\text{mm}$ の関係を理解し、単位の換算ができる。
	6	・ ものさしを用いて必要な長さの直線をひく。	知 「直線」の用語とその意味、直線のひき方を理解し、ものさしを用いて必要な長さの直線をひくことができる。
	7	・ ものさしを用いて身の回りの物の長さをはかる。 *ものさしの構造について理解を	主 身の回りの物の長さに進んで関わり、様々な場所の長さを測定しようとしている。
* ものさしの つかい方			

(教 p.62)		深める。	
2 長さの 計算 (教 p.63)	8	・ 長さの加法及び減法が用いられる場面を知り、簡単な長さの加減の計算をする。	知 長さの簡単な加減の計算ができる。
たしかめもんだい (教 p.64~65)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 長さの単位 cm、mm の意味や単位の間係を理解し、ものさしを用いて長さを測定したり、必要な長さの直線をひいたりすることができる。 考 長さの表し方について、普遍単位や下位単位のいくつ分になるか考えている。

*算数たまたばこ

5 100 より大きい数 (教科書:p.66~80 時期:5~6月 配時:11 時間)

[単元の目標]

1000までの数について、構成、表し方、読み方などを理解し、数を10や100を単位として相対的にみるなど多面的に捉え、数の表し方や読み方などを生活や学習に生かすことができる。

知 1000までの数の構成、表し方、読み方、順序、系列、大小、相対的な大きさについて理解する。また、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をすることができる。

考 1000までの数の構成、表し方、読み方などを既習の数から類推して考え、表すことができる。また、数を10や100を単位として相対的にみるなど多面的に捉え、それを生かして、加法、減法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 既習の数の学習を生かして数の構成や表し方、読み方について考えようとしたり、より大きな数の表し方について発展的に考えようとしたりする。また、身の回りから数が使われている場面を見つけようとするなど、数の表し方、読み方などを生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 数の あらわし方 (教 p.66~76)	1	・ 3位数の構成を理解し、数えたり、表したり、読んだりする。	知 3位数の数え方、構成、表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。
	2		考 既習の2位数の表し方から類推して、3位数の表し方を考えている。 主 既習の数の数え方を生かして、具体物の数を工夫して数えようとしている。
* おはじきで 数をつくらう (教 p.71)	3	・ 空位のある3位数の構成を理解し、表したり、読んだりする。 * 位取り板とおはじき3個でいろいろな数をつくる。	知 空位のある3位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。
	4	・ 10を10個以上集めた数を、何百何十と捉える。	知 10を10個以上集めた数を表すことができる。 考 10を単位として数を構成したり、相対的にみたりしている。
	5	・ 何百何十を10のいくつ分と捉える。	知 何百何十を10を単位として表すことができる。 考 10を単位として数を構成したり、相対的にみたりしている。
	6	・ 数直線の読み取りを通して、3位数の順序、系列を理解する。	知 数直線の仕組みを理解し、数直線上に表された数を読んだり、

			数直線上に数を表したりすることができる。
	7	・ 3位数の大小比較の仕方を理解する。	知 3位数の大小比較の仕方を理解している。
	8	・ 1つの数を多面的にみることを通して、数感覚を豊かにする。	考 3位数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。
2 千 (教 p.77)	9	・ 1000 の構成や大きさ、表し方、読み方を理解する。	知 1000 の構成や大きさ、表し方、読み方を理解している。 主 数を 100 のまとまりで捉えた学習を生かし、1000 という数の大きさや表し方を考えようとしている。
3 たし算と ひき算 (教 p.78)	10	・ 何十どうしの加法で、繰り上がりのある計算や、百何十から何十をひく減法で、繰り下がりのある計算をする。	知 何十と何十の加法及びその逆の減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 10 を単位とした数の見方に着目し、計算の仕方を考え、説明している。
たしかめもんだい (教 p.79~80) * みのまわりから 数を見つけよう (教 p.80)	11	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 * 身の回りから 1000 までの数を見つける。	知 1000 までの数の構成、表し方、系列、大小、相対的な見方を理解し、数を表したり、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をしたりすることができる。 考 数の構成に着目し、10 を単位として数を構成したり、数の大きさの比べ方について考え、説明したりしている。

読みとる力を のぼそう (教 p.81)	1	・ 身の回りで使われている数とその仕組みに興味をもつ。また、数を用いて位置が整理できることを理解し、情報から位置を特定したり、位置を特定する情報をつくらたりする。	知 与えられた情報から、位置を特定したり、位置を表す説明を多様に表現したりできる。 主 身の回りで使われている数に進んで関わり、その仕組みを調べようとしている。
プログラミングに ちようせん!① (教 p.82~83)	-	・ 数の見方をひろげるとともに、目的の数にするために、命令をどのような順序で組み合わせ	知 繰り返しの命令カードを使うことで、カードの枚数を少なくでき、組み合わせが簡単になることを

		ればよいかについて考えたり、何度繰り返せばよいかについて考えたりする。	理解している。 考 数を多面的に捉え、どのような順序で命令を組み合わせ、何度繰り返せば目的の数になるかを考えている。
ふくしゅう (教 p.84)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

*算数たまたばこ

6 かさの たんい (教科書:p.85~93 時期:6月 配時:6時間)

[単元の目標]

かさの表し方を考え、かさの単位の意味や関係を理解し、1dLます、1Lますを用いて測定することができる。

知 かさの単位 mL、dL、L とそれらの関係を理解し、適切なかさの単位を用いて、身の回りの具体物のかさを測定することができる。

考 長さの普遍単位から類推して、かさについても普遍単位の必要性を見いだしたり、必要に応じて、1つの単位から新しい単位をつくることを見いだしたりすることができる。

主 普遍単位を用いてかさを表すよさに気づき、かさの単位や測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 かさの あらわし方 (教 p.85~92)	1	・ かさの普遍単位「dL」を知り、水のかさを dL 単位で表す。	<p>知 かさの単位に「デシリットル」があり、「dL」と書くことを理解し、dL を用いてかさを表すことができる。</p> <p>考 長さの学習経験をもとに、かさを表す方法を考えている。</p>
	2	・ かさの単位「L」を知り、1L=10dL の関係を理解する。	<p>知 L の単位の必要性や 1L=10dL の関係を理解し、L や dL を用いてかさを表すことができる。</p> <p>考 長さの測定と同じように、十進構造に着目して、10dL=1L であることを考えている。</p>
	3	・ 1L の水を予想して容器に入れたり、いろいろな入れ物に入る水のかさを測定したりして、かさに対する興味・関心を高め、量感を養う。	<p>知 容器に入る水のかさを、1dL ますや 1L ますではかることができる。</p> <p>主 dL でははかりきれない量に着目し、dL より小さい単位がないかと新しい問題を見いだしている。</p>
	4	・ かさの単位「mL」を知り、1L=1000mL、1dL=100mL の関係を理解する。	<p>知 mL 単位の必要性と、1L=1000mL、1dL=100mL の関係を理解している。</p>
	5	・ かさの簡単な加減の計算をする。 * 身の回りからかさを L 単位や mL 単位で表している入れ物	<p>知 かさの簡単な加減の計算ができる。</p>
* いろいろな かささがし			

(教 p.92)		を探し、かさの単位や量についての関心を高める。	
たしかめもんだい (教 p.93)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 かさの単位とその関係を理解し、水のかさを表したり、かさの簡単な加減の計算をしたりすることができる。</p> <p>考 かさの表し方について、普遍単位のいくつ分になるか考えている。</p>

*算数たまたばこ

7 時こくと 時間 (教科書:p.94~103 時期:7月 配時:6時間)

[単元の目標]

時刻と時間の違い、時間の単位の関係などを理解し、時刻や時間を表すことができるとともに、時刻や時間を生活に生かすことができる。

知 時刻と時間の意味の違いや時間の単位(日、時、分)の関係、午前、午後の意味を理解し、簡単な場合について時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。

考 時計の表す時刻や針の動き、時間の数直線などをもとに、時刻や時間の求め方を考えることができる。

主 日常生活に必要な時刻や時間を表現するなど、時刻や時間の表し方、求め方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 時こくと 時間 (教 p.94~100)	1	[アプローチ] ・ 教 p.94 の絵をもとに、駅で電車の発車を待つことなどの経験を話し合い、時刻や時間に対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。 ・ 時刻と時間の意味の違いを理解し、使い分ける。また、簡単な場合の時間を求める。	知 時刻と時間の意味の違いや、簡単な場合の時間の求め方を理解し、時間を求めることができる。 主 時刻と時間の学習を生活と結び付けて捉え、時間の求め方などに進んで関わろうとしている。
	2	・ 1時間=60分の関係を理解する。また、時間の求め方などに習熟する。	知 1時間=60分の関係を理解し、簡単な場合の時間を求めることができる。
	3 4	・ 「午前」、「午後」の用語とそれらの意味を理解し、それらを用いて時刻を表す。また、短針が1周するのに要する時間が12時間であることと、1日=24時間の関係を理解する。	知 「午前」、「午後」の用語とそれらの意味や、1日=24時間の関係を理解し、「午前」、「午後」を用いて時刻を表すことができる。
	5	・ 簡単な場合について、ある時刻から一定時間後の時刻や、一定時間前の時刻を求める。	知 ある時刻から一定時間後の時刻や、一定時間前の時刻を求めることができる。 考 時計の文字盤や数直線をもとに、ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を考え、説明している。
	たしかめもんだい	6	・ 基本的な学習内容を理解して

(教 p.101~103)		いるか確認し、それに習熟する。	時間=60分、1日=24時間などの関係を理解し、時刻や時間を求めることができる。
おうちで算数 (教 p.102)	-	・ 既習を生かし、時刻や時間を意識して生活する。	-

* 時こくの あらわし方 (教 p.104)	1	* 時刻表をもとに、24時制での時刻の表し方とそのよさを理解する。	知 12時制と24時制の表し方を理解している。 主 24時制のよさに気づき、生活に生かそうとしている。
ふくしゅう (教 p.105)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

*算数たまたばこ

8 たし算とひき算のひっ算 (教科書:p.106~122 時期:9月 配時:11時間)

[単元の目標]

2位数の加法(和が3位数)とその逆の減法について、既習の計算をもとに筆算の仕方を考え、計算することができる。

知 2位数の加法(和が3位数)とその逆の減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、加法の結合法則について理解し、工夫して計算することができる。

考 数の仕組みに着目したり、既習の筆算から類推したりして、加法や減法の筆算の仕方を考え、説明することができる。

主 既習の計算をもとにして筆算の仕方を考えようとしたり、桁数の多い計算など新しい問題を見いだしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 たし算のひっ算 (教 p.106~111)	1	[アプローチ] ・ 既習の計算を振り返り、十の位が繰り上がる2位数+2位数や百の位から繰り下がる3位数(百の位が1)-2位数に対する見通しをもつ。 ・ 2位数+2位数で、十の位が繰り上がる加法の計算原理や方法を理解し、筆算で計算する。	知 2位数+2位数で、十の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習事項をもとにして、十の位が繰り上がる2位数+2位数の筆算の仕方を考えようとしている。
	2	・ 2位数+2位数で、一の位と十の位が繰り上がる加法の計算原理や方法を理解し、筆算で計算する。	知 2位数+2位数で、一の位と十の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 2位数+2位数で、一の位と十の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を、既習事項をもとにして考え、説明している。
	3	・ 2位数までの加法で、一の位、十の位と波及的に繰り上がる加法を筆算で計算する。	知 2位数までの加法で、一の位、十の位と波及的に繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。
2 たし算のきまり (教 p.112~113)	4	・ 加法では、たす順序を変えても答えは変わらないこと(加法の結合法則)を理解し、それを活用して計算を工夫する。	知 加法の結合法則を理解し、工夫して計算することができる。
れんしゅう	5	・ 基本的な学習内容に習熟し、	知 2位数までの加法の筆算の仕

(教 p.114)		それを活用する。	方を理解し、計算できる。
3 ひき算の ひっ算 (教 p.115~120)	6	・ 3位数(百の位が1)から2位数をひいて、百の位から十の位へ繰り下がる減法の計算原理や方法を理解し、筆算で計算する。	知 3位数(百の位が1)-2位数で、百の位から十の位へ繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習事項をもとにして、3位数(百の位が1)-2位数で、百の位から十の位へ繰り下がる減法の筆算の仕方を考えようとしている。
	7	・ 3位数(百の位が1)から2位数をひいて、百の位と十の位から繰り下がる減法の計算原理や方法を理解し、筆算で計算する。	知 3位数(百の位が1)-2位数で、百の位と十の位から繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数(百の位が1)-2位数で、百の位と十の位から繰り下がる減法の筆算の仕方を既習事項をもとにして考え、説明している。
	8	・ 3位数(百の位が1)から2位数をひいて、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法を筆算で計算する。	知 3位数(百の位が1)-2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数(百の位が1)-2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を既習事項をもとにして考え、説明している。
	9	・ 3位数(百の位が1)から1、2位数をひいて、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の理解を深める。	知 3位数(百の位が1)-1、2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習の加法、減法をもとに、さらに大きな数の計算についても考えられないかと新しい問題を見いだしている。
4 大きな数の	10	・ 既習事項をもとにして、3位数	知 3位数+1、2位数及び3位数

たし算と ひき算 (教 p.121)		と1、2位数の加法及び3位数から1、2位数をひく減法を筆算で計算する。	<p>－1、2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p>考 3位数の百の位が1より大きい場合にも既習の筆算の仕方を適用して考えている。</p>
たしかめもんだい (教 p.122)	11	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 2位数までの加法(和が3位数)やその逆の減法、及び簡単な場合の3位数の加法、減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p>

*ひっ算をつくろう (教 p.123)	1	* 2位数と2位数の加法及び減法の計算の理解を深める。	<p>考 加法の交換法則や加法と減法の相互関係、筆算の手順をもとに、□に当てはまる数を筋道立てて考えている。</p>
ふくしゅう (教 p.124)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

*算数たまたばこ

9 三角形と 四角形 (教科書:p.125~136 時期:9~10月 配時:11時間)

[単元の目標]

辺、頂点などの図形の構成要素に着目して、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の特徴を見だし、定義に基づいて弁別したり、作図したりすることができる。

知 三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の定義や構成要素(辺、頂点、直角)、性質について理解し、定義に基づいて弁別したり、作図したりすることができる。

考 図形の構成要素に着目し、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の特徴を見いだすことができる。また、定義に基づいて図形を弁別し、そのわけを説明することができる。

主 身の回りから三角形や四角形を見つけようとする。また、図形の敷き詰めをたのしみ、模様の美しさや平面のひろがりに気づく。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 三角形と 四角形 (教 p.125~128)	1 2	・「三角形」、「四角形」の用語とそれらの定義、構成要素の「へん」、「ちょう点」について理解し、三角形や四角形を弁別したり、かいたりする。	知 「三角形」、「四角形」の用語とそれらの定義、構成要素(辺、頂点)について理解している。 考 辺や頂点に着目して、三角形や四角形を弁別したり、特徴を見いだしたりし、それを説明している。
	3	・定義に基づいて、三角形か四角形かを弁別し、理由を説明する。	考 定義に基づいて三角形か四角形かを弁別し、そのわけを説明している。
2 長方形と 正方形 (教 p.129~131)	4	・不定形の紙を折って直角をつくる活動を通して、「直角」の用語とその意味を理解し、身の回りから直角を探す。	知 「直角」の用語とその意味を理解している。 主 身の回りから、直角をいろいろと見つけようとしている。
	5	・紙を折って長方形をつくる活動を通して、「長方形」の用語とその定義、性質を理解する。	知 「長方形」の用語とその定義、性質を理解している。 考 構成活動をもとに、長方形の構成要素の特徴を見いだしている。
	6	・正方形をつくる活動を通して、「正方形」の用語とその定義を理解する。	知 「正方形」の用語とその定義を理解している。 考 構成活動をもとに、正方形の特徴を見いだすとともに、定義をもとに図形を弁別し、そのわけを説明している。

3 直角三角形 (教 p.132~133)	7	・ 直角三角形をつくる活動を通して、「直角三角形」の用語とその定義を理解する。	<p>知 「直角三角形」の用語とその定義を理解している。</p> <p>考 直角三角形の特徴を見いだすとともに、定義をもとにして図形を弁別し、そのわけを説明している。</p>
	8	・ 方眼を使って長方形や正方形、直角三角形をかく活動を通して、長方形や正方形、直角三角形についての理解を深める。	<p>知 長方形や正方形、直角三角形の定義や性質を理解し、方眼を使って作図することができる。</p>
4 もようづくり (教 p.134)	9	・ 合同な長方形、正方形、直角三角形の色板を敷き詰める活動を通して、各図形の理解を深め、平面のひろがりや模様の美しさを感じ取る。	<p>主 平面を敷き詰める活動をたのしみ、模様の美しさや平面のひろがりに気づいている。</p>
たしかめもんだい (教 p.135~136) * 三角形や 四角形を さがそう (教 p.136)	10 11	<p>・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p> <p>* 身の回りから三角形や四角形とみることができる物を進んで見つけようとする。</p>	<p>知 長方形、正方形、直角三角形の用語やその構成要素、定義や性質について理解し、方眼を用いて作図することができる。</p> <p>考 定義に基づいて正方形を弁別し、そのわけを説明している。</p> <p>主 身の回りの様々な物について、三角形や四角形とみることができる形を進んで見つけようとしている。</p>

*算数たまたばこ

10 かけ算 (教科書:p.137~153 時期:10~11月 配時:15時間)

[単元の目標]

乗法の意味を理解し、その意味や乗法に関して成り立つ性質をもとに乗法九九を構成し、九九を唱えることができるとともに、具体的な場面で乗法を用いることができる。

知 乗法の意味や「ばい」の意味を理解し、乗法の場面を半具体物や式、言葉などを用いて表すとともに、乗法九九(2~5の段)の構成の仕方や唱え方を理解し、唱えることができる。

考 場面の数量の関係に着目し、「1つ分の大きさ」や「いくつ分」を捉えて、全体の個数の求め方について考えたり、乗数が1増えると積が被乗数分増える性質を見いだしたりし、それを用いて九九を構成することができる。

主 累加の簡潔な表現としての乗法のよさや九九のよさに気づき、身の回りから乗法の場面を見つけようとするなど、乗法を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 かけ算 (教 p.137~142)	1	・ 具体的な場面を調べたり、ブロックを用いたりして、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。	知 全体の数量を基準とする大きさのいくつ分と表現できる。 考 全体の数量を基準とする大きさのいくつ分として捉えている。
	2	・ 乗法の意味や式表示の仕方、乗法の答えは加法(同数累加)によって求められることを理解する。	知 乗法は同数の物がいくつあるときに用いることや式表示の仕方を理解し、乗法の場面を式に表したり、答えを累加で求めたりすることができる。
	3	・ 乗法の意味や式表示の仕方の理解を深める。	知 乗法の式をおはじきの並びで表したり、おはじきの並びから立式したりすることができる。
	4	・ 身の回りから同じ数ずつまとめた物を探し、乗法の式表示の理解を深める。	知 物の数を乗法の式に表すことができる。 主 既習の乗法の式を使って、身の回りの様々な物の数を表そうとしている。
2 九九 (教 p.143~150)	5	・ 2のいくつ分かの大きさを求めて、2の段の九九を構成する。また、「九九」の用語と意味を理解する。	知 2の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。
	6	・ 2の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 2の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。

	7	・ 5のいくつかの大きさを求めて、5の段の九九を構成する。	知 5の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。
	8	・ 5の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 5の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。
	9	・ 3の段の九九を構成することができる。「かけられる数」、「かける数」の用語とそれらの意味を理解する。また、3の段では、乗数が1増えると答えが3増えることを理解する。	知 乗数が1増えると答えが3増えることを理解し、3の段の九九を構成することができる。また、「かけられる数」、「かける数」の用語とそれらの意味を理解している。
	10	・ 3の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 3の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。
	11	・ 乗数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが4増えることを理解し、4の段の九九を構成することができる。 考 乗数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九の構成を考えている。
	12	・ 4の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 4の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。
3 ばいと かけ算 (教 p.151~152)	13	・ もとにする量のいくつかを「ばい」で表現することを知り、その大きさを乗法の式に表す。	知 「〇ばい」の意味を理解し、「ばい」という用語を用いたり、乗法の式に表したりすることができる。
	14	・ 分離量でも連続量と同じように、「ばい」を用いられることを知り、場面を乗法の式に表す。	知 「ばい」の理解を深め、分離量の場面を乗法の式に表すことができる。
たしかめもんだい (教 p.153)	15	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 乗数と積の関係を理解するとともに、2の段から5の段の九九を唱えることができる。 考 乗法は同数の物のいくつかと考えると、式に表せることを理解し、そのわけを説明している。
*かけ算ビンゴ (教 p.154)	1	* 2の段から5の段の九九カードを用いてかけ算ビンゴをし、	知 2の段から5の段の九九を正しく唱えることができる。

		2の段から5の段の九九に習熟する。	
* 九九の カードゲーム (教 p.155)	1	* 2の段から5の段の九九カードを用いたゲームをし、2の段から5の段の九九に習熟する。	知 2の段から5の段の九九の答えについて理解し、正しく唱えることができる。

*算数たまたばこ

11 かけ算九九づくり (教科書:p.156~165 時期:11~12月 配時:10時間)

[単元の目標]

乗法の意味の理解を深め、乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗法九九を構成するとともに、九九を唱え、用いることができる。

知 乗法九九(6、7、8、9、1の段)の構成の仕方と唱え方を理解し、確実に唱えることができる。

考 乗法に関して成り立つ性質を用いて、乗法九九の構成の仕方を考えることができる。

主 既習の段の九九から新しい段の九九を考えようと学習をひろげたり、既習の構成の仕方を生かして新しい段の九九の構成の仕方を考えようしたりする。また、乗法九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
11 かけ算九九づくり (教 p.156~163)	1	[アプローチ] ・ 2の段から5の段までの九九の答えを表に書き、他の段への興味・関心を高める。	知 乗数が1増えると答えが6増えることなどを理解し、6の段の九九を構成することができる。
		・ 乗数が1増えると答えが6増えることなどを活用して、6の段の九九を構成する。	考 既習の乗法を活用して、6の段の九九の構成を考えている。
	2	・ 6の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 6の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。
	3	・ 乗数が1増えると答えが7増えることなどを活用して、7の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが7増えることなどを理解し、7の段の九九を構成することができる。 主 6の段の構成で学んだ既習の乗法の活用の仕方を7の段の構成でも用いようとしている。
	4	・ 7の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 7の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。
	5	・ 乗数が1増えると答えが8増えることなどを活用して、8の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが8増えることなどを理解し、8の段の九九を構成することができる。 考 既習の乗法を活用して、8の段の九九の構成を考えている。
6	・ 8の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	知 8の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	

		る。	
	7	・ 乗数が1増えると答えが9増えることなどを活用して、9の段の九九を構成する。	<p>知 乗数が1増えると答えが9増えることなどを理解し、9の段の九九を構成することができる。</p> <p>主 8の段の構成で学んだ既習の乗法の活用の仕方を9の段の構成でも使いようとしている。</p>
	8	・ 9の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりする。	<p>知 9の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。</p>
	9	・ 1の段の九九の意味を理解し、九九を構成し、唱え方を知り、適用する。	<p>知 1の段の九九の意味や構成の仕方を理解し、唱えることができる。</p>
たしかめもんだい (教 p.164~165)	10	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 6、7、8、9及び1の段の九九の構成の仕方を理解し、唱えることができる。</p> <p>考 8×6の答えの求め方を言葉や図を用いて説明している。</p>

プログラミングに ちょうせん!② (教 p.166~167)	-	<p>・ 乗法の学習を生かした簡単なプログラムを作成することを通して、同数累加の場面で乗法で表されることを改めて確かめ、乗法についての理解を深める。</p> <p>* 生活の中でプログラムが使われている場面を知り、興味・関心を高める。</p>	<p>知 繰り返しの命令ブロックを使うことで、必要なブロックの数が少なくなることを理解している。</p> <p>考 乗法の学習を生かし、どのような順序で命令を組み合わせ、何回繰り返せば問題文に合ったプログラムを作成できるか考えている。</p>
* みのまわりの プログラミング			
読みとる力を のぼそう (教 p.168~169)	1	・ 公園探検のしおりの中の情報から、必要な情報を取捨選択し、それを用いて問題を解いたり、つくったりする。	<p>考 提示された情報の中から必要な情報を選び取ったり、情報どうしを組み合わせ活用したりしている。</p> <p>主 提示された情報の中から必要な情報を読み取ろうとしている。</p>

12 長いものの長さのたんい (教科書:p.170~176 時期:12月 配時:5時間)

[単元の目標]

長い物の長さの測定の仕方や表し方を考え、長さの単位 m や cm との関係を理解し、1m ものさしを用いて、長さを測定することができる。

知 長さの単位 m や cm との関係 ($1\text{m}=100\text{cm}$) を理解し、1m ものさしを用いて、長さを測定したり、m、cm 単位で表された長さの加減の計算をしたりすることができる。

考 大きな単位を用いれば長い物の長さを小さな数で表せるよさを見いだすことができる。

主 m の単位を用いて長さを表すよさや1m ものさしのよさに気づき、長さの単位や測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 長いものの長さの あらわし方 (教 p.170~175)	1	[アプローチ] ・ 教 p.170 の場面をもとに 30cm より長いものさしの必要性に気づき、長い物の長さに対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。 ・ 長さの単位「m」について知り、 $1\text{m}=100\text{cm}$ の関係を理解する。	知 m 単位の必要性や $1\text{m}=100\text{cm}$ の関係を理解することができる。 考 大きな単位を用いれば、長い物の長さを小さな数で表せると考えている。
	2	・ 長い物の長さについて、m と cm の複名数で表したり、単名数で表したりする。	知 長い物の長さを複名数や単名数で表すことができる。
	3	・ 身の回りの物の長さの見当をつけ、実際に1m ものさしで測定し、その長さを m、cm の単位で表す。	知 1m の長さの見当をつけたり、1m ものさしを用いて長さを測定したりすることができる。 主 身の回りの物の長さに進んで関わり、様々な場所の長さを測定しようとしている。
	4	・ m、cm 単位で表された長さの加減の計算をする。	知 m、cm 単位で表された長さの加減の計算の仕方を理解し、長さの加減の計算ができる。
たしかめもんだい (教 p.176)	5	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 長さの単位 m と cm の関係を理解し、長さの加減の計算ができる。 考 長さの加法または減法の問題をつくっている。

ふくしゅう (教 p.177)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-
読みとる力を のぼそう (教 p.178~179)	1	・ 長さの問題について、与えられた情報を整理したり、選択したりして、筋道立てて考えることができる。また、自分の考えを数学的に表現する。	考 自分の考えを、式や言葉を使って表現している。 主 与えられた情報を進んで整理したり、選択したりして、問題を解決しようとしている。

13 1000 より大きい数 (教科書:p.180~191 時期:1月 配時:9時間)

[単元の目標]

10000 までの数について、既習の数と関連付けて考え、数の構成、表し方、読み方などを理解するとともに、何百と何百の加法や減法の計算をしたり、数の表し方や読み方などを生活や学習に生かすことができる。

知 10000 までの数の構成、表し方、読み方、順序、系列、大小、相対的な大きさについて理解し、数を読んだり、表したりすることができる。また、何百と何百の加法で繰り上がりのある計算や、何百、千から何百をひく減法の計算ができる。

考 10000 までの数の構成、表し方、読み方を既習の数の仕組みから類推的に考え、表すことができる。また、数を多面的にみることができるとともに、それを用いて加法、減法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 身の回りの物の数字を読むとするとなど、数の表し方、読み方などを生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 大きな数の あらし方 (教 p.180~187)	1	・ 4位数の構成を理解し、物の数を数えて、数字で表したり、読んだりする。	<p>知 4 位数の構成、表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。</p> <p>考 既習の数の表し方から類推して、4 位数の表し方を考えている。</p> <p>主 既習を生かして 4 位数を表したり、読んだりしようとしている。</p>
	2	・ 空位のある4位数の構成を理解し、表したり、読んだりする。	<p>知 空位のある 4 位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。</p>
	3	・ 100 を 10 個以上集めた数を、何千何百と捉える。	<p>知 100 を 10 個以上集めた数を表すことができる。</p> <p>考 100 を単位として数を構成したり、数を相対的にみたりしている。</p>
	4	・ 何千何百を 100 のいくつかと捉える。	<p>知 何千何百を 100 を単位として表すことができる。</p> <p>考 100 を単位として数を構成したり、数を相対的にみたりしている。</p>
	5	・ 4位数を数直線上に表したり、数直線を読み取ったりする。また、4位数の大小比較の仕方	<p>知 数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。また、4 位数の大</p>

		を理解する。	小比較の仕方を理解している。
	6	・ 4位数を様々な見方で表し、数の理解を深める。	考 4位数を多面的にみて、表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。
2 一万 (教 p.188~189)	7	・ 1000 を 10 個集めた数を 10000 と表して、「一万」と読むことを知る。また、10000 を数直線と対応させ、10000 についての理解を深める。	知 10000 の構成や、大きさ、表し方、読み方を理解し、10000 までの数を数直線上に表したり、表された数を読み取ったりすることができる。
3 何百の たし算とひき算 (教 p.190)	8	・ 何百に何百をたす加法や、何百から何百をひく減法、1000 から何百をひく減法の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 「何百」+「何百」、「何百」-「何百」、1000-「何百」の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 100 を単位とした数の見方に着目し、何百と何百の加法や減法の計算の仕方を考え、説明している。
たしかめもんだい (教 p.191)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 4 位数の構成、表し方、大小、数直線の読み方を理解している。 考 100 を単位とした数の見方に着目し、何百と何百の加法の計算の仕方を考えている。

14 たし算とひき算のかんけい

(教科書:p.192~200 時期:1~2月 配時:6時間)

[単元の目標]

加法や減法の場面の数量の関係をテープ図や式に表して捉え、問題を解決することができる。

知 加法と減法は互いに逆の関係になっていることなど、加法と減法の相互関係について理解する。また、テープ図の意味や表し方を理解し、図をもとに場面を式に表すことができる。

考 数量の関係に着目し、場面を図に表し、加法と減法の相互関係を考えて式に表すことができる。

主 数量の関係を図に表すことよき気づき、学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 たし算とひき算の かんけい (教 p.192~199)	1	・ テープ図の意味と表し方を理解し、場面をテープ図に表し、数量関係を式に表す。	知 テープ図の意味や表し方を理解し、問題場面をテープ図に表すことができる。 主 簡便にかけるというテープ図のよき気づき、場面を図に表そうとしている。
	2	・ 部分を求める場面をテープ図に表し、数量の関係を式に表すことで、加法と減法の相互関係の理解を深める。	知 部分を求める場面をテープ図に表し、全体を求めるときは加法、部分を求めるときは減法が用いられることを理解している。
	3	・ 数量の関係をテープ図に表し、加法の逆思考の問題を解決する。	考 加法の逆思考の問題について、数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。 主 テープ図を用いると数量の関係を捉えやすくなることに気づき、学習に生かそうとしている。
	4	・ 数量の関係をテープ図に表し、減法逆の減法の問題を解決する。	考 減法逆の減法の問題について、数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。
	5	・ 数量の関係をテープ図に表し、減法の逆思考の問題を解決する。	考 減法の逆思考の問題について、数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。
たしかめもんだい (教 p.200)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟す	知 テープ図の意味や表し方を理解し、図をもとに場面を式に表すこ

		る。	とができる。 考 数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。
--	--	----	--

* どんな 計算 するのかな (教 p.201)	I	* 具体的な問題場面で、どんな 計算になるか考え、演算決定 をして、問題を解決する。	考 数量の関係を正しく捉え、式を 立てた根拠を言葉、テープ図な どで説明することができる。 主 立式の根拠を説明するために、 テープ図などの既習事項を活 用しようとしている。
--------------------------------	---	--	--

*算数たまたばこ

15 かけ算の きまり (教科書:p.202~211 時期:2月 配時:7時間)

[単元の目標]

乗法について成り立つ性質やきまりを理解するとともに、12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えたり、全体の数を乗法を用いて工夫して求めたりすることができる。

知 乗法について成り立つ性質やきまりを理解する。また、全体の数を乗法を用いて求めることができる。

考 12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を、乗法について成り立つ性質やきまりをもとに考えることができる。また、数のまとまりに着目し、全体の数の求め方を工夫して考え、説明することができる。

主 身の回りから乗法が用いられる場面を見つけたり、工夫して乗法を適用しようとしたりするなど、乗法を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 かけ算の きまり (教 p.202~209)	1	・ 乗法九九の表を見て気づいたことをもとにして、乗数と積の関係を乗法の性質としてまとめる。	考 乗数が1増えると積は被乗数分だけ増えることを理解している。 主 乗法九九の表から乗法について成り立つ性質やきまりをいろいろと見つけようとしている。
	2	・ 乗法九九の表を見て気づいたことをもとにして、被乗数と乗数を入れ替えた積を比べ、乗法の交換法則が成り立つことをまとめる。	知 乗法の交換法則が成り立つことを理解している。
	3	・ ○の段と△の段の答えをたすと、(○+△)の段ができることを調べる。	知 ○の段と△の段の答えをたすと、(○+△)の段の答えができることを理解している。
	4	・ 乗法について成り立つ性質やきまりを活用して、被乗数や乗数が12までの乗法の答えの求め方を考える。	考 乗法のきまりを活用して、被乗数や乗数が12までの乗法の答えの求め方を考えている。
	5 6	・ 全体の個数を乗法九九を活用して求めたり、個数を求める図や式から思考過程を読み取ったりする。	知 全体の数を乗法の式を用いて、求めることができる。 考 数のまとまりに着目し、全体の数を工夫して求める方法を考え、説明している。
たしかめもんだい (教 p.210~211)	7	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 乗法について成り立つ性質やきまりを理解し、それを用いて乗数が10の計算をすることができ

			<p>る。</p> <p>考 乗法のさまりを活用して、乗数が10の乗法の答えの求め方を考え、説明している。</p>
--	--	--	--

16 分数 (教科書:p.212~218 時期:2~3月 配時:6時間)

[単元の目標]

具体物の操作を通して、 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ などの簡単な分数について知り、様々な等分する場面を分数を用いて表し、進んで生活に生かそうとする。

知 具体物の操作を通して、 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ など簡単な分数の意味と表し方を理解している。

考 等分した1つ分の大きさについて、もとの大きさとの関係に着目して考え、分数を用いて表すことができる。

主 分数に進んで関わり、日常生活から分数を用いる場面を見いだしたり、学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 分数 (教 p.212~217)	1 2	[アプローチ] ・ 様々な形のパンを半分にする場面から「半分」の仕方や意味について関心をもつ。 ・ 具体物の操作を通して、2つに等分した1つ分の大きさをもとの大きさの $1/2$ と表すことを理解する。	知 $1/2$ の意味と表し方について理解している。 主 生活の場面から、半分にした大きさの表し方について関心もち、進んで分数の意味や表し方について考えようとしている。
	3 4	・ 具体物の操作を通して、4つに等分した1つ分の大きさをもとの大きさの $1/4$ と表すことを理解し、 $1/3$ 、 $1/8$ などの分数についても同じように考える。	知 $1/4$ や $1/3$ 、 $1/8$ の意味と表し方について理解している。 考 等分した1つ分の大きさの表し方について、具体物の操作の結果から、もとの大きさとの関係に着目し、 $1/2$ の学習から類推的に考えている。
	5	・ チョコレートを等分する場面における1人分の大きさや個数について考え、分数の意味と表し方の理解を深める。	知 チョコレートを等分する分け方を考え、「12個の $1/\bigcirc$ は Δ 個」などと表現している。
たしかめもんだい (教 p.218) * $1/2$ と いえるかな (教 p.218)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 * 切り分けた大きさが、もとの正方形の $1/2$ の大きさといえるか考え、話し合う。	知 簡単な分数の意味と表し方について理解している。 考 等分した1つ分の大きさについて、もとの大きさとの関係に着目して考えたり、分数を用いて表したりしている。

*算数たまたばこ

17 はこの形 (教科書:p.219~223 時期:3月 配時:5時間)

[単元の目標]

箱の形やさいころの形を構成し、面や辺、頂点などの構成要素に着目して、立体図形の特徴を捉えることができる。

知 正方形や長方形を貼り合わせたり、ひごや粘土玉を用いたりして、箱の形やさいころの形を構成することができる。また、面の形や数、辺の長さや数、頂点の数など、箱の形やさいころの形の構成要素の特徴を理解する。

考 面、辺、頂点などの構成要素に着目し、その特徴を見いだしたり、構成の仕方を考えたりすることができる。

主 立体図形に進んで関わり、箱の形やさいころの形を構成しようとしたり、特徴を調べようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 はこの形 (教 p.219~222)	1 2	・身の回りにある箱の形の面に着目し、面を紙に写し取って形や数を調べ、その特徴を理解する。	知 直方体や立方体の面の形や数について理解している。 考 箱の形やさいころの形の面に着目し、特徴を見いだしている。 主 身の回りにある箱の形やさいころの形の面の形や数について調べようとしている。
	3	・切り取った面をテープで貼り合わせて、箱の形やさいころの形を作り、面と面の位置関係を調べ、その特徴を説明する。	知 面をつなぎ合わせて、箱の形やさいころの形を構成することができる。 考 箱の形やさいころの形の構成を通して、面と面の位置関係を見いだしている。
	4	・ひごと粘土玉を使って、箱の形を作る活動を通して、「へん」、「ちょう点」を知り、それらの特徴を理解する。	知 箱の形の辺、頂点の特徴を理解している。 考 箱の形の構成を通して、辺、頂点などの構成要素の特徴を見いだしている。
たしかめもんだい (教 p.223)	5	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 箱の形やさいころの形について、面の形や数、辺の長さや数、頂点の数などの構成要素の特徴を理解している。 考 面の形や数に着目し、箱の形を構成するのに必要な面を考えている。

読みとる力を のばそう (教 p.224~225)	1	・ さいころの対面の目の和が7になることを利用して、さいころの隠れた面の数を考える。	考 さいころを積んだときの見えない面の目の数の和について、さいころが2個のときをもとに考え、求め方を説明している。
2年の ふくしゅう (教 p.226~229)	1 2	・ 2学年の復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-